



阿賀野川水系阿賀川河川整備計画 骨子(案)について

平成21年7月
国土交通省 北陸地方整備局

阿賀川河川整備計画

第1章 流域の概要

第2章 河川の現状と課題

第3章 河川整備の目標に関する事項

第1節 河川整備の基本理念

第2節 計画対象区間

第3節 計画対象期間

第4節 洪水による災害の防止又は軽減に関する目標

第5節 流水の適切な利用及び正常な機能の維持に関する目標

第6節 河川環境の整備と保全に関する目標

今回議論して頂く事項

第4章 河川整備の実施に関する事項

第1節 河川の整備の実施に関する基本的事項

第2節 河川工事の目的、種類及び施工の場所並びに当該河川工事の施工により設置される河川管理施設の機能の概要

第3節 河川の維持の目的、種類及び施工の場所

1. 洪水による災害の防止又は軽減 (治水)に関する事項

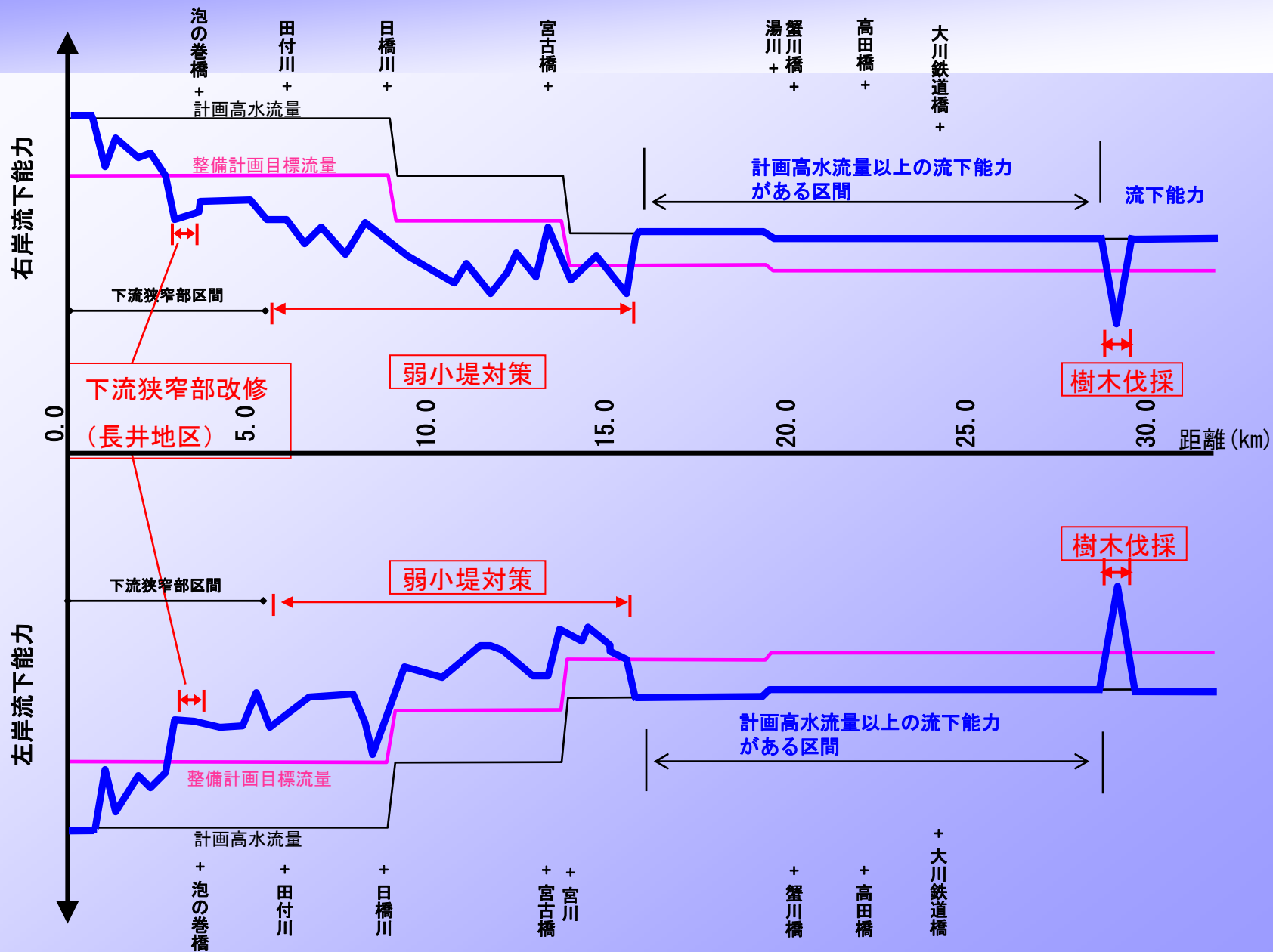
- (1) 戦後最大規模の洪水を安全に流下させるための対応
- (2) 堤防の安全性の確保
- (3) 減災への取り組み

(1) 戦後最大規模の洪水を安全に 流下させるための対応

阿賀川の洪水氾濫から沿川地域を防護するため、戦後最大洪水に相当する規模の洪水を計画高水位(H. W. L)以下で安全に流下させる。

- ① 下流狭窄部改修(長井地区)
- ② 弱小堤対策(堤防の完成化)
- ③ 湯川洗堰改築
- ④ 支川合流点処理

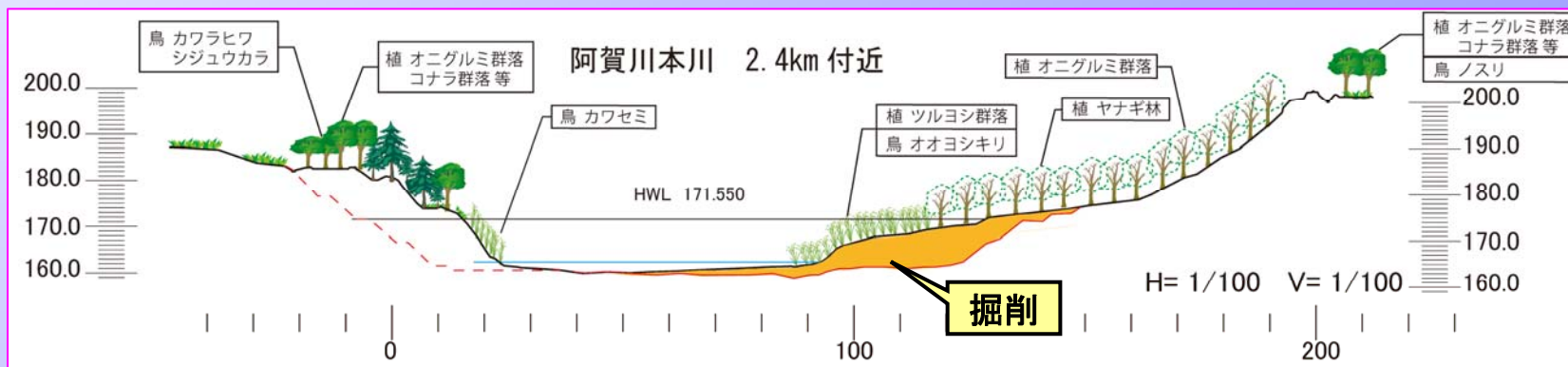
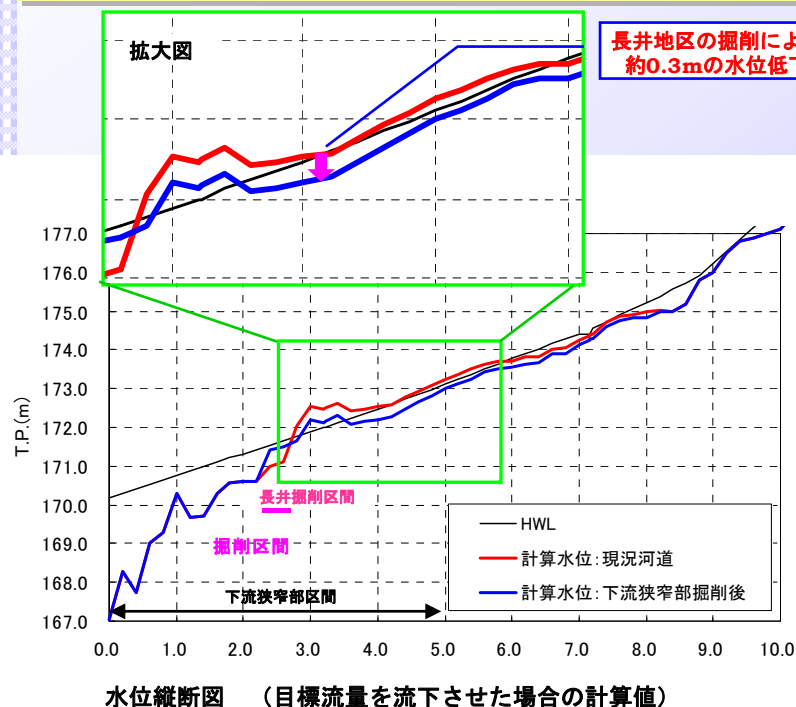
阿賀野川水系(阿賀川)流下能力図



※整備計画目標流量：大川ダム等の調節効果を除いた、河道配分流量

①下流狭窄部改修（長井地区）

長井地区の河道掘削を行うことにより、河川断面を確保し、上流側の有堤部区間の水位を低下させる。

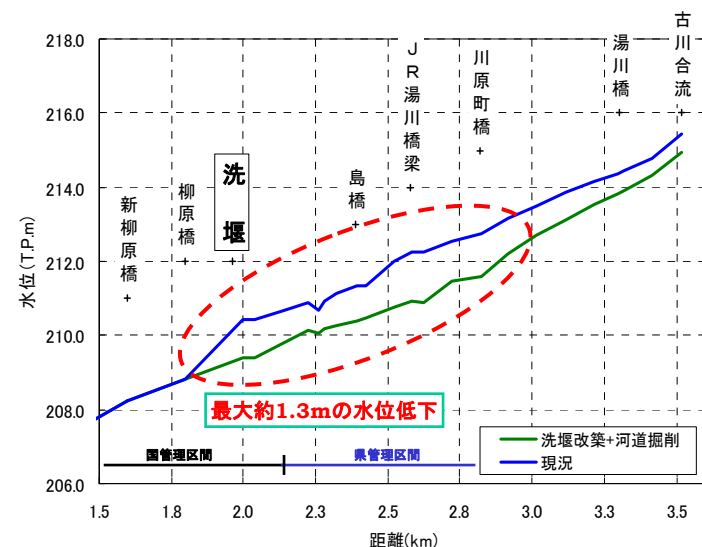
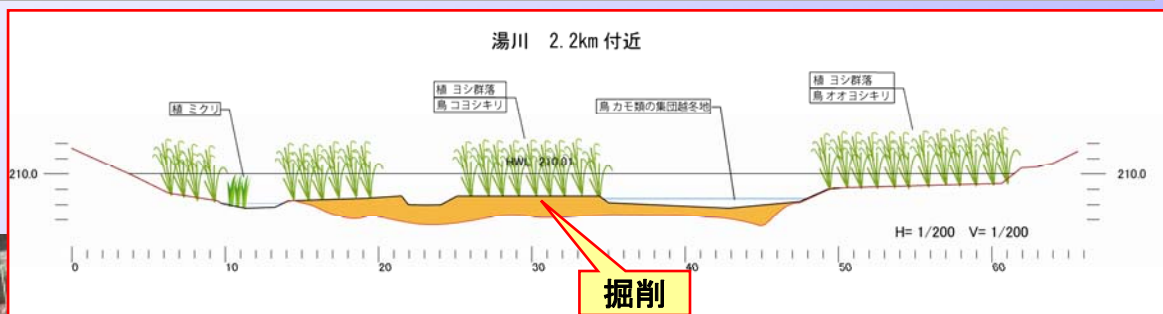


堤防の幅・高さの不足する区間で、堤防拡幅、嵩上げを実施し、未完成堤防を完成堤防化する。



③湯川洗堰改築

湯川洗堰の改築及び洗堰上流部の河道掘削により、上流への水位せき上げの影響を解消する。



水位縦断面図(目標流量を流下させた場合の計算値)

④支川合流点処理

濁川の支川合流点部の河道掘削を行う。



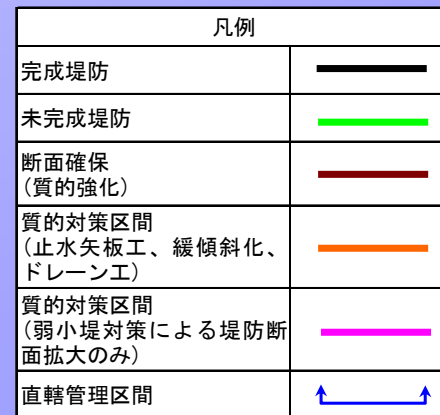
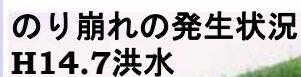
(2) 堤防の安全性の確保

- ・堤防の浸透に対する危険箇所の対策(質的整備)を行うことによって、堤防の安全性を確保する。
- ・河岸浸食・河床洗掘による危険箇所の対策(水衝部対策)を行うことにより、河岸の安全性を確保する。

⑤ 堤防の質的整備

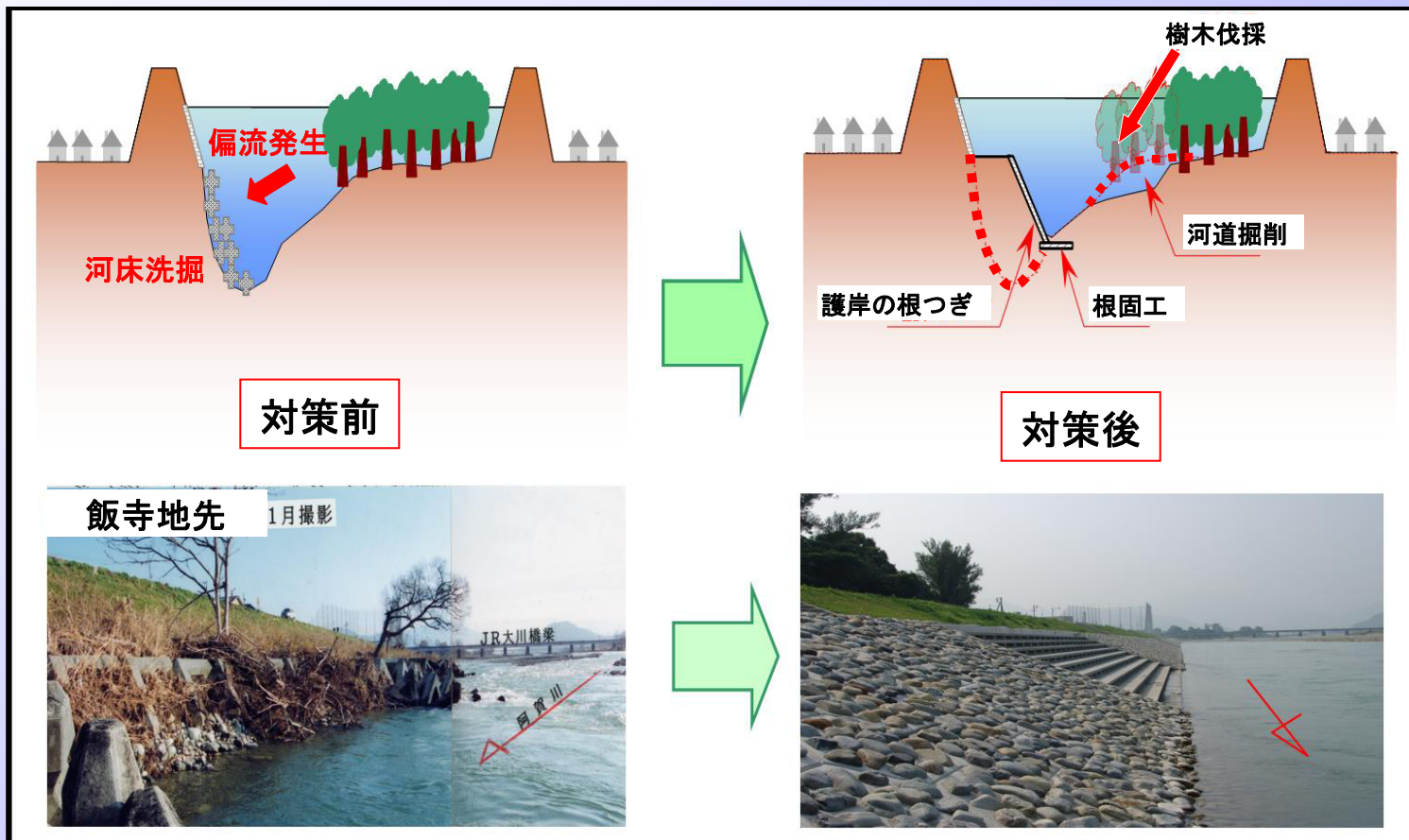
⑥ 水衝部対策

堤防の浸透に対する詳細点検結果をもとに、パイピング破壊やすべり破壊に対する安全性が確保されていない箇所について、対策を実施する。



⑥水衝部対策

河岸侵食や河床洗掘に対する安全度を高水敷幅や護岸基礎高から評価し、安全性が確保されていない箇所について、護岸の根継ぎ工、根固対策、河道掘削を行う。



水衝部対策の一例(会津若松市飯寺地先)

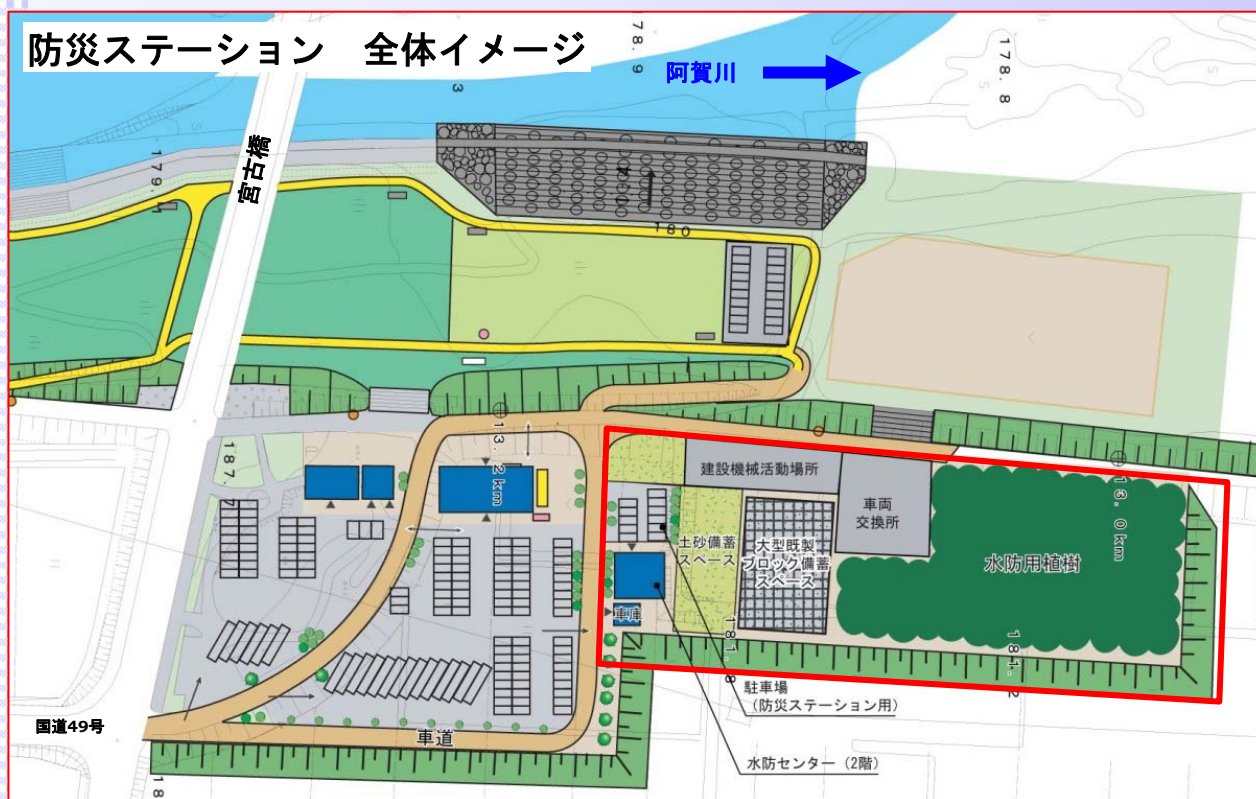
(3) 減災への取り組み

水害時の被害軽減のため、防災拠点の整備、防災情報の高度化・提供、洪水ハザードマップ作成の支援、水防活動支援等のソフト面での対策を地域と連携して進める

- ⑦ 防災拠点の整備
- ⑮ 防災情報の高度化・提供
- ⑯ 洪水ハザードマップ作成支援
- ⑰ 水防活動支援の継続（水防訓練、排水ポンプ車対応）

⑦防災拠点の整備

洪水時の水防活動や破堤等の大規模災害が発生した場合の緊急復旧活動を行うための広域的な活動拠点、また、資機材の備蓄や建設機械の活動場所を確保するための拠点として、関係機関(町村)と連携し、防災ステーションの整備を行う。



⑮防災情報の高度化・提供

洪水時に円滑な水防活動や避難を行うため、水位や現地画像等のリアルタイムの情報を地域住民に発信するとともに、関係機関で情報の共有化を行う。また、光ケーブル網の整備を促進し、河川管理の高度化を図る。



光ケーブル整備系統図



湯川情報板



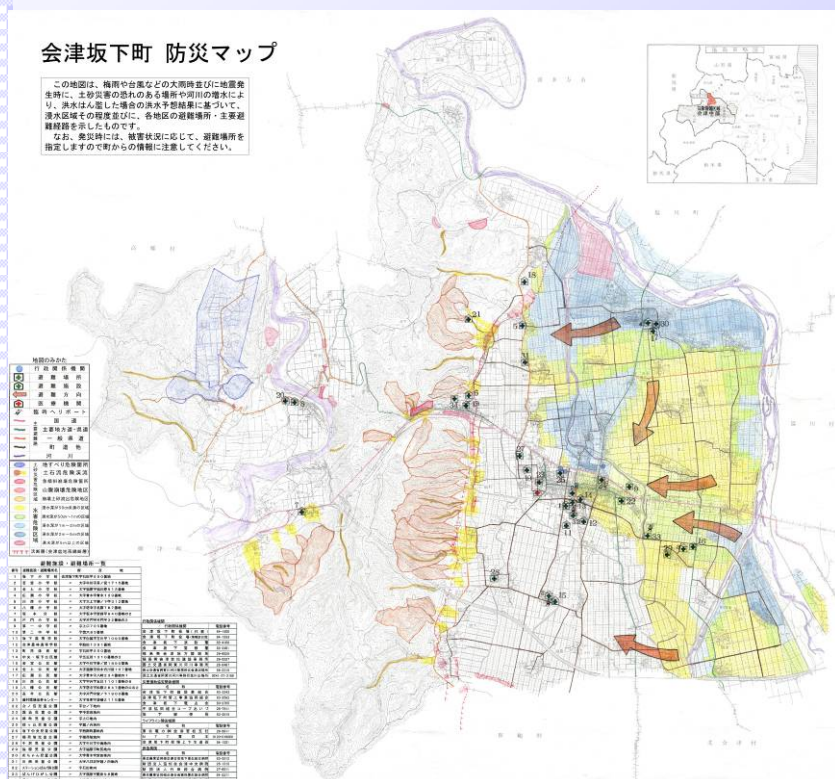
湯川CCTV

情報通信技術を利用した整備の状況

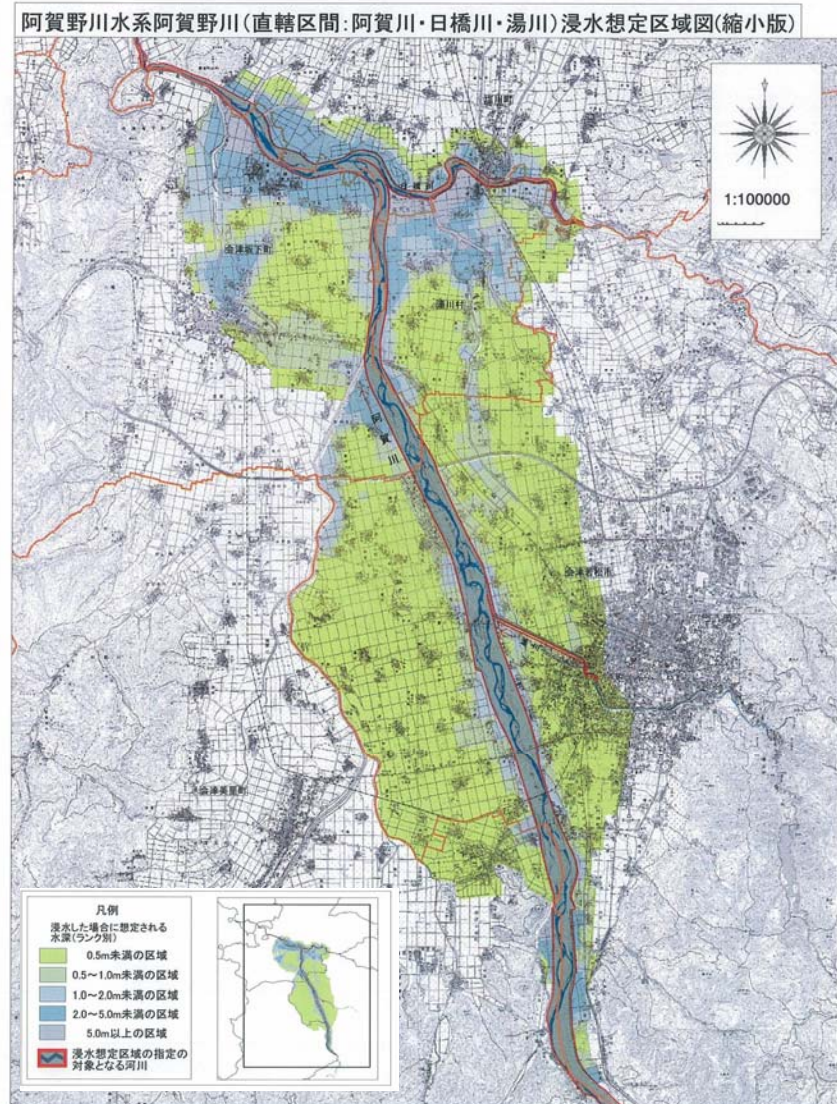
整備項目	現在
光ファイバー網	51.9km ・管理区間:38.2k ・接続等 :13.7k
光ファイバー網 接続市町村	会津若松市 喜多方市 会津美里町
CCTV整備	35箇所
情報コンセント	38箇所

⑬洪水ハザードマップ作成支援

- ・湯川の浸水想定区域図の公表
- ・災害情報協議会の実施
- ・市町村が作成する洪水ハザードマップ(避難情報図)作成の支援



会津坂下町ハザードマップ



阿賀川・日橋川・湯川 浸水想定区域図

⑰水防活動支援の継続

福島県，水防管理団体と連携して、河川合同巡視、情報伝達訓練・水防訓練・水防演習等を行うとともに、浸水被害等が発生した場合には排水ポンプ車等による水防活動支援を継続実施していく。

阿賀川夜間水防訓練

1. 実施内容（実施工法）

木流し工、シート張工、月の輪工、積み土のう工、排水ポンプ車による排水工

2. 参加機関

阿賀川水防連絡会（阿賀川河川事務所、福島県土木部、喜多方市ほか12団体の防災担当者及び消防団員 約400名）



月の輪工

シート張工



出水時の支援



排水ポンプ車



照明車

2. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

- (1) 流水の正常な機能の維持
- (2) 良好な水質の維持および改善

（１）流水の正常な機能の維持

阿賀川の流水の正常な機能を維持するための水量について調査検討を進めるとともに、渇水時においてその水量が確保されるよう、関係機関の合理的な水利用の促進、大川ダム of 効率的な運用を図る。

⑱ 流況等のモニタリング

（河川環境保全のために必要な流量の調査検討等）

⑲ 関係水利使用者との渇水調整

⑳ 大川ダムによる渇水補給

⑱ 流況等のモニタリング（必要流量の調査検討等）

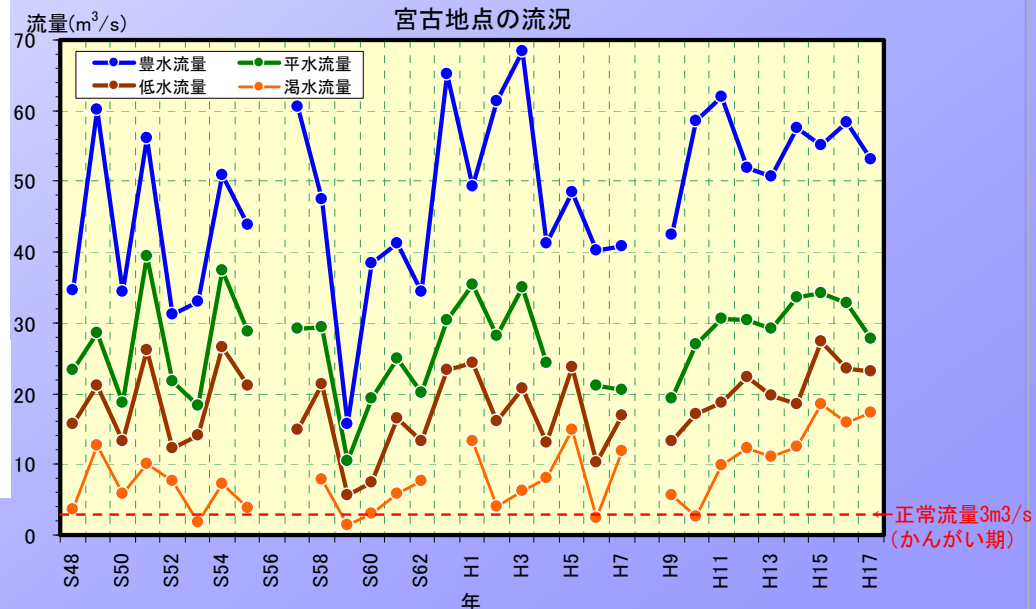
流水の正常な機能を維持するための水量を把握するため、今後も流況調査等を継続実施し、必要流量の検討を行っていく。



渇水時の瀬切れの状況



馬越観測所; H6.7.20



⑬関係水利使用者との渇水調整

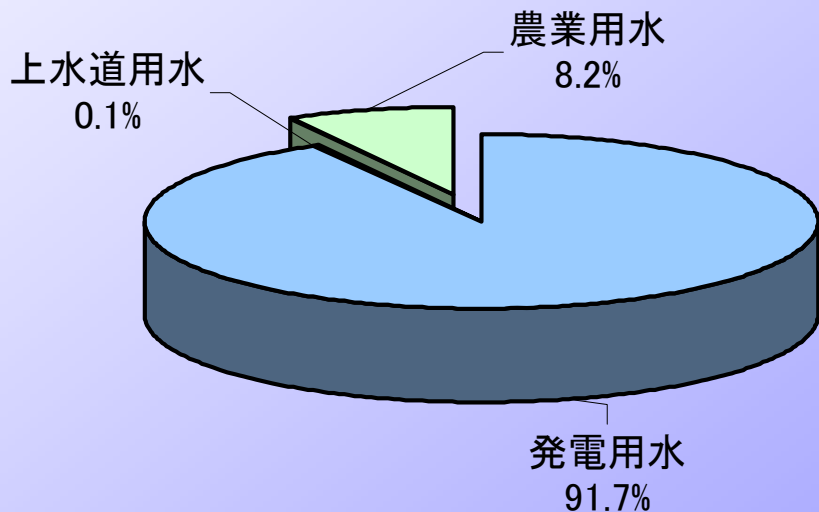
水利用の適正な管理及び広域的・合理的な水利用を図るため、関係機関及び水利用者との調整を行う。



馬越堰堤



富川堰堤



水利権量の内訳



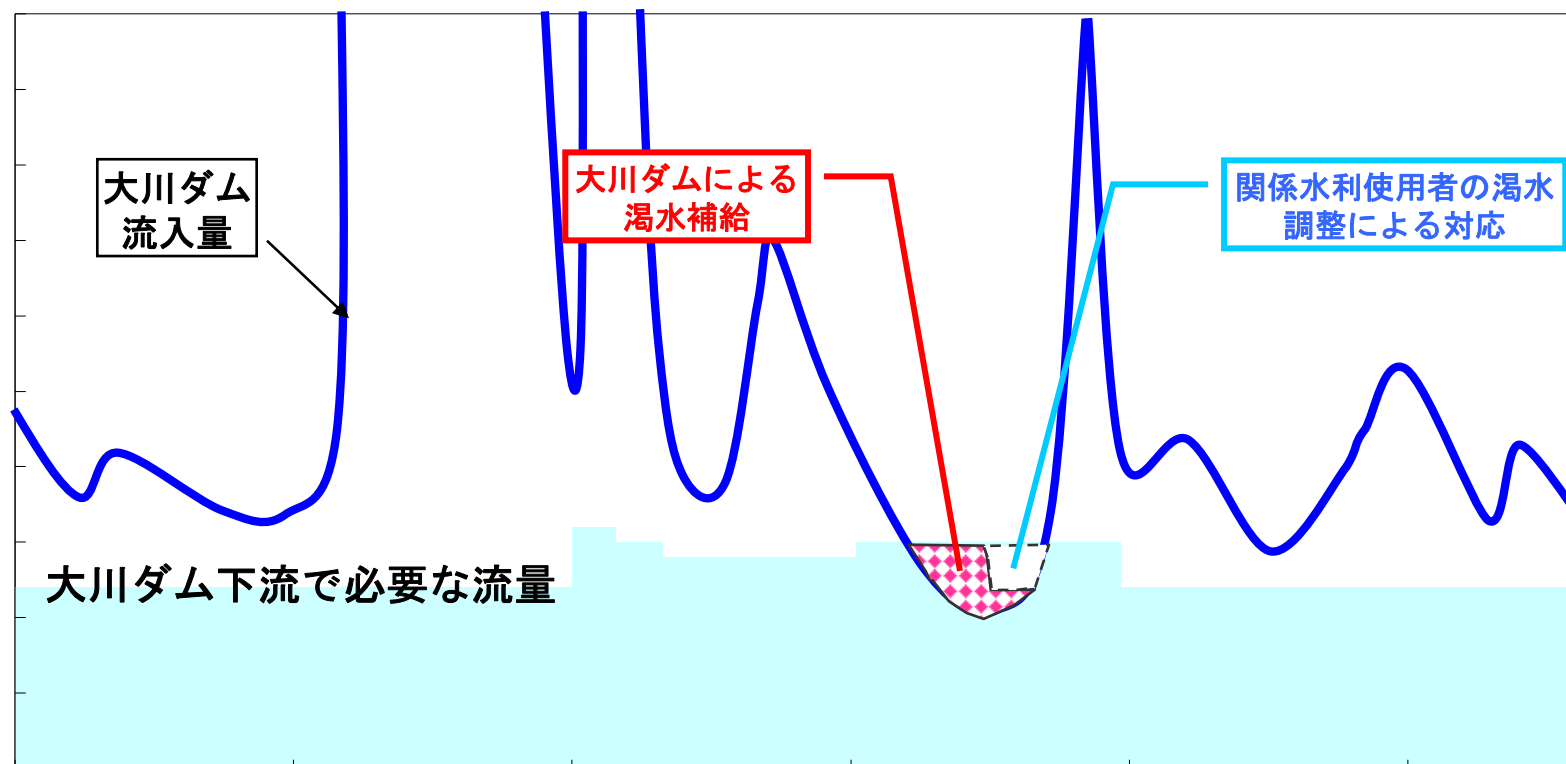
阿賀川水収支模式図

⑪関係水利使用者との渇水調整

⑫大川ダムによる渇水補給

大川ダムの運用方法を見直し、渇水時に下流河川へ補給を行い、流水の正常な機能の維持を図ります。更に、補給を行っても確保できない場合は、関係水利使用者による適切な取水量の調整を行う。

大川ダムによる流況改善のイメージ図



（２）良好な水質の維持及び改善

- ・ 継続的な水質モニタリング及び関係機関との連携により、良好な水質の維持に努める。
- ・ 湯川等の水質汚濁の著しい支川等では、水質改善を図るため、関係者が一体となった事業展開を推進する。

- ②① 水質調査の継続実施等
- ②② 水質事故時の対応
- ②③ 湯川等における水質改善

②1 水質調査の継続実施等

阿賀川本川の水質は、現在、環境基準を満足し良好な状態にあることから、今後も引き続き定期的な水質調査を実施し監視していく。

②2 水質事故時の対応

水質事故による利水及び環境への被害を最小限にとどめるため、「阿賀野川水系水質汚濁対策連絡協議会」を通じて迅速な情報伝達を行うとともに、関係機関で連携して水質事故の被害拡大防止に努める。

また、水質事故対応に必要な資機材を備蓄するとともに、水質自動観測装置の点検・維持管理、水質事故対応訓練を行う。



水質事故時の対応

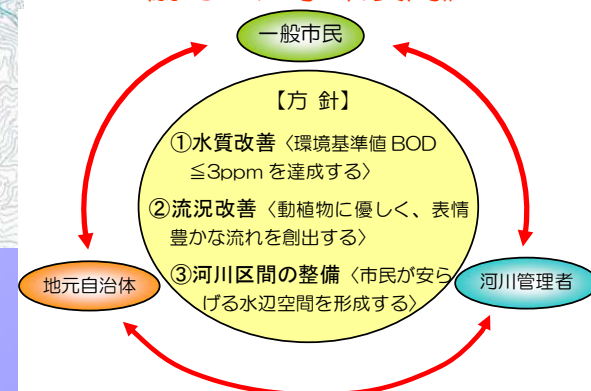
②3 湯川等における水質改善

湯川の水質改善を目指し、平成11年度より「水環境整備事業」として、汚泥浚渫、低々水路整備、浄化施設整備、阿賀川本川からの浄化用水導入等を実施してきた。今後は、住民、地元自治体、河川管理者が一体となった事業展開により、水質改善を推進する。

また、水質汚濁の著しい支川等の水質調査を継続実施する。



《一般市民及び地元自治体と協力した事業展開》



3. 河川環境の整備と保全

- (1)「阿賀川らしさ」を形成している河川環境の保全と再生
- (2)河川空間の利活用、連携・協働による川づくり、河川管理の促進

(1) 「阿賀川らしさ」を形成している 河川環境の保全と再生

生物の多様な生息・生育環境を形成する阿賀川らしい自然環境及び自然景観の保全、再生を行う。

- ⑧ 多自然川づくりの実施
- ⑨ 自然再生事業の推進
- ⑩ 工事による環境への影響軽減
- ②④ 環境モニタリング

⑧多自然川づくりの実施

礫河原、瀬や淵、細流、湧水箇所等の阿賀川らしい自然環境及び多様な河川景観を保全・創出する多自然川づくりを行う。

【高久地区での事例】

コンクリート護岸→かごマットへ
湧水の保全とイトヨの生息を確認

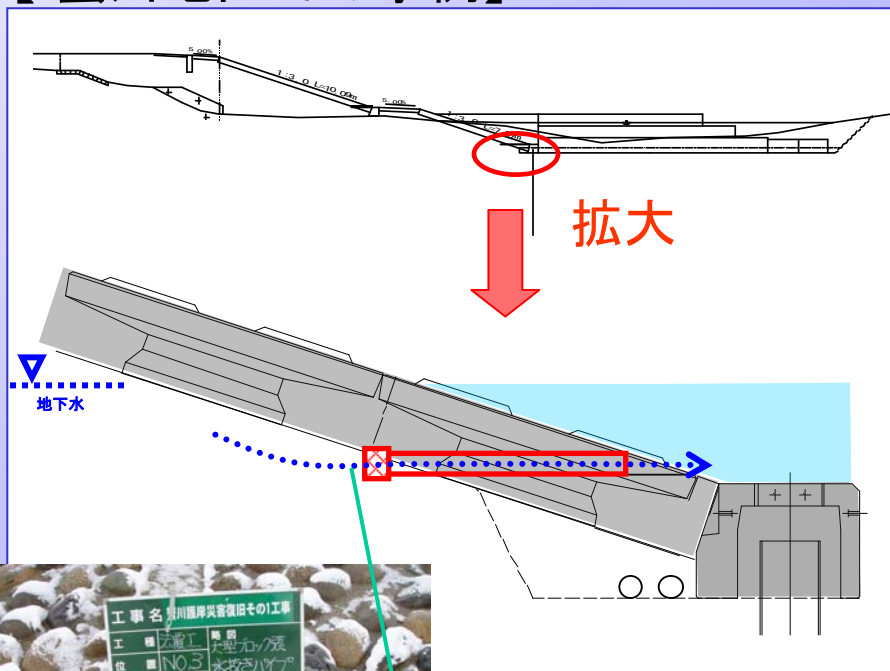


陸封型イトヨ



湧水の状況

【蟹川地区での事例】



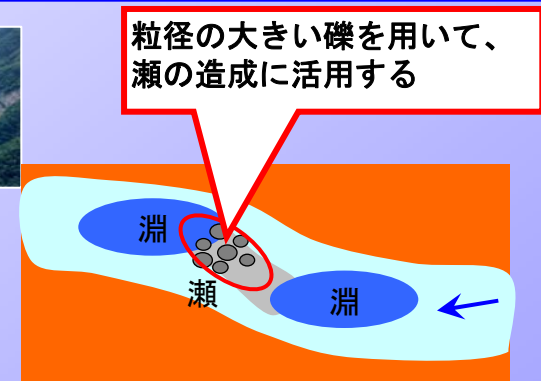
通水孔の設置により、
地下水の流れを確保

通水孔

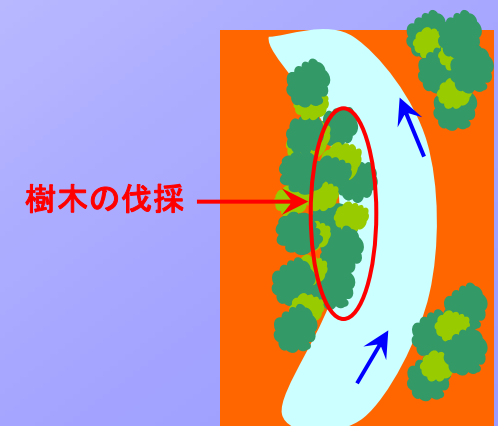
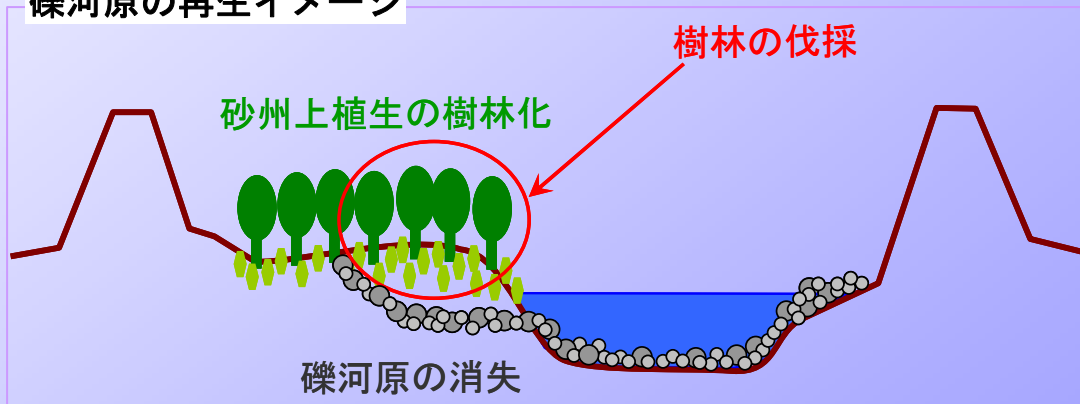
⑨自然再生事業の推進

かつて阿賀川の象徴的な魚類であったアユ、希少種であるウケクチウグイなどが数多く生息していた、瀬や淵、ワンドなど魚類生息環境を保全・再生する。
カワラニガナ、カワラバッタなど礫河原特有の動植物の生育・生息場である、礫河原の保全・再生を行う。

瀬の再生イメージ



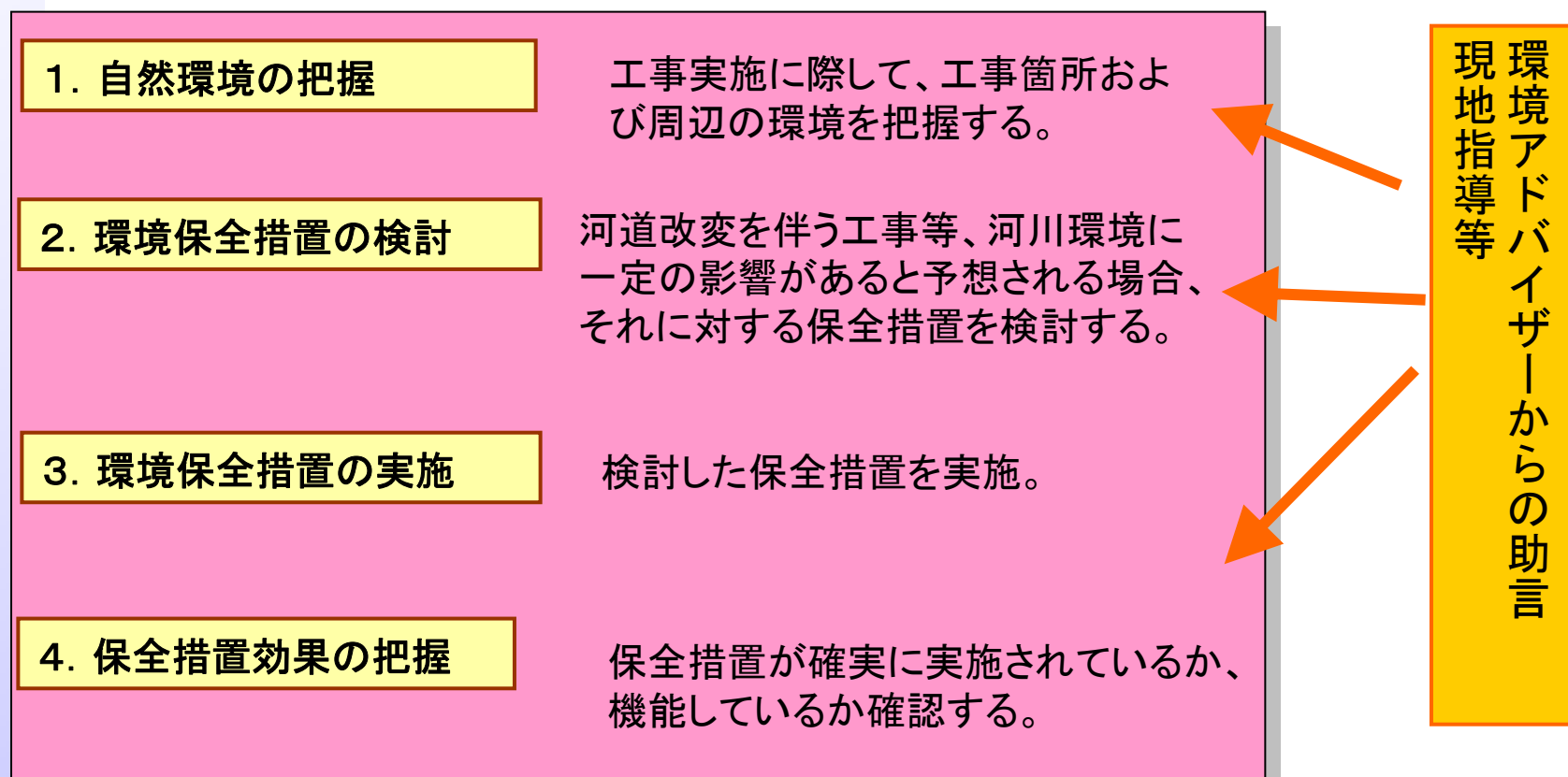
礫河原の再生イメージ



⑩工事による環境への影響軽減

②④ 環境モニタリング

工事の実施に際しては、環境アドバイザーの助言・指導のもと、事前の環境調査の基づく保全措置を検討実施し、事後調査により、保全措置の効果を把握し、工事による環境への影響を軽減する。



（２）河川空間の利活用、連携・協働 による川づくり、河川管理の促進

地域住民や自治体、NPOなどと連携し、地域の文化・歴史と一体となった川づくり、河川空間の利活用・河川環境保護活動を推進し、住民参加型の河川管理を促進する。

⑪ 地域の文化・歴史と一体となった川づくり

⑪地域の文化・歴史と一体となった川づくり

国道49号と阿賀川が交差する宮古橋の右岸において「人の駅、川の駅、道の駅」拠点整備の構想があり、これを支援していく。

河川内整備は「かわまちづくり支援事業」により、地域と連携して整備を進める。



4. 河川の維持管理に関する事項

- (1) 阿賀川の有する機能を充分発揮できる
効率的・効果的な維持管理の実施

(1) 阿賀川の有する機能を充分発揮できる 効率的・効果的な維持管理の実施

効果的かつ効率的な維持管理を実施し、堤防や樋門等の河川管理施設、河道及び河川空間が本来もっている機能を十分発揮できるような良好な状態を継続させる。

- ⑫ 河道の維持管理
- ⑬ 河川の巡視・点検・調査
- ⑭ 河川管理施設等の点検・維持管理
- ⑮ 地域との連携、協働による河川管理
- ⑯ サイクル型維持管理の実施

⑫河道の維持管理（樹木管理、河道堆積土砂の除去）

流水の阻害や河川管理上支障となっている箇所の樹木群について、計画的に伐採を行う。樹木伐採にあたっては、環境アドバイザーの助言・指導のもとに、環境に配慮しながら実施する。

日橋川0. 2km (H19年度実施)

施工前



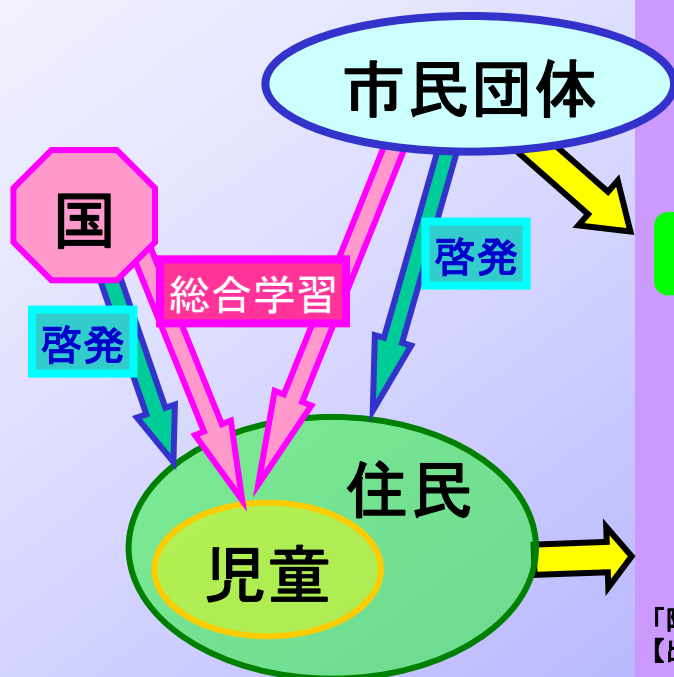
施工後



②⑤ 地域との連携・協働による河川管理

市民団体、非営利機関（NPO）、地域住民及び市民ボランティアの方々の協力を得て河川の維持管理を行い、河川愛護精神の高揚・強化を図る。

- ・ 住民団体による河川管理（堤防除草）
- ・ 住民団体による河川美化活動
- ・ 将来の担い手育成（総合学習支援・会津めだか塾）
- ・ 啓発活動（健康ウォーク）



住民参加の河川管理

ボランティアによる美化運動

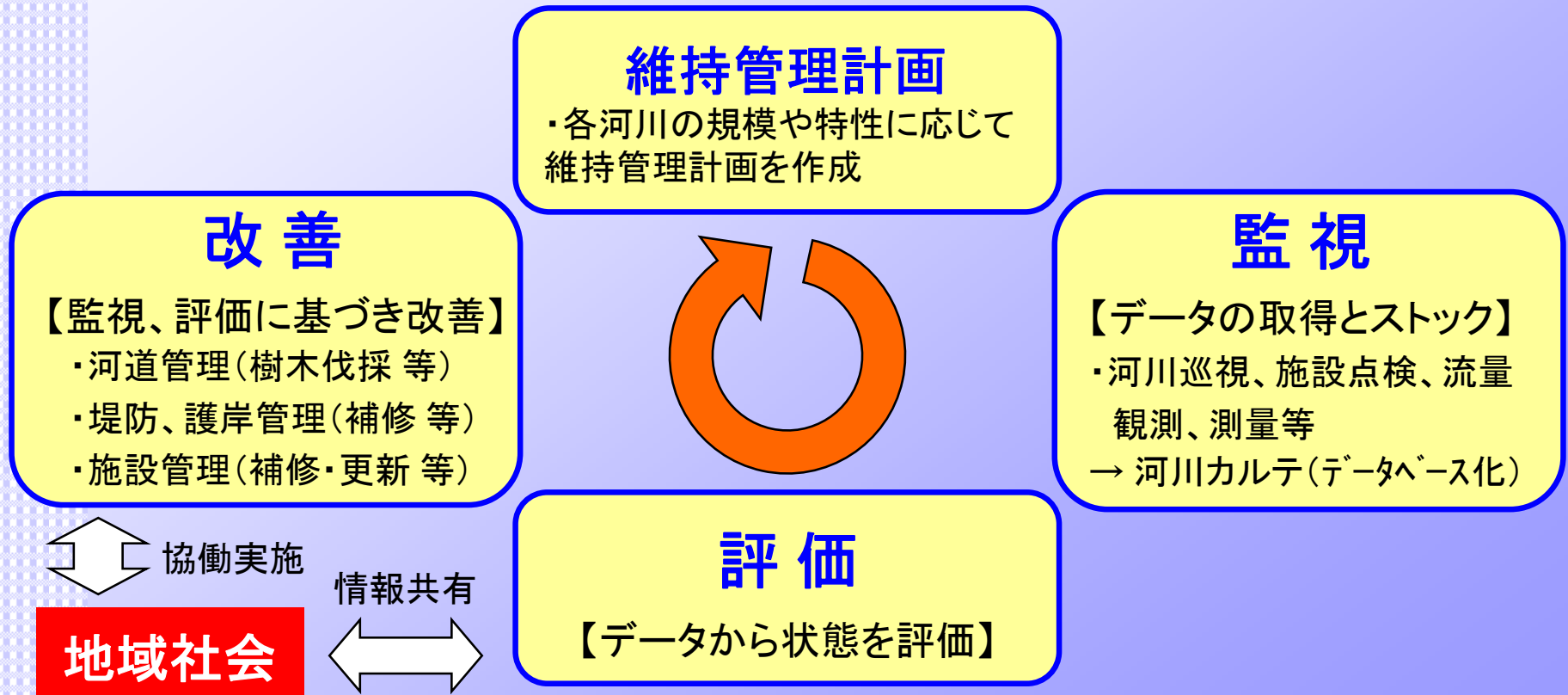
地域活動

「阿賀川・川の達人の会」活動状況
【出典：阿賀川・川の達人の会HP】



②⑥ サイクル型維持管理の実施

阿賀川の河川特性を踏まえ、洪水時や渇水時だけでなく平常時から阿賀川の有する機能が十分に発揮されるよう、河川管理上の重点箇所や実施内容など具体的な**維持管理の計画を作成するとともに**、河川の状態変化の監視、状態の評価、評価結果に基づく改善を一連のサイクルとした「**サイクル型維持管理**」により効率的・効果的に実施する。



サイクル型維持管理計画のイメージ